

要旨

キーワード：地域連携、学校保健委員会、歯科保健

1. はじめに

岐阜県内の〇村にワーストワンの歯科保健結果を出していた（DMFT 指数 4.0）小中学校があった。しかし、平成 12 年から 10 年かけて、学校関係者だけでなく地域ぐるみで「歯と口の健康」に取り組んだ結果、その小中学校の歯科保健事情は大きく改善し文部科学大臣賞の表彰を受けるまでになった。その改善には学校関係者だけでなく地域ぐるみで「歯と口の健康」に取り組んだことが良い結果をもたらした。この研究は、〇村の歯科保健に関する改善のプロセスを分析することで、養護教諭としての取り組みや姿勢を考え、地域連携を活かした子どもの健康課題の解決に役立つ示唆を得るために実施した。

2. 方法・対象

〇村の歯科保健活動に関わった関係者にインタビューを実施し、時系列で出来事をまとめていく。また、村の保健や歯科保健に関わる資料を基に歯科保健活動に関する動向をまとめ、インタビュー結果と照らし合わせながら、地域の歯科保健の実情を改善させた背景にはどのような要素があったのかを明らかにしていく。

3. 結果と考察

1) 〇村では歯科保健活動のヘルスプロモーションの考え方はどのようにして広まったのか。「ヘルシーティース 2001 事業」ではプリシード・プロシードモデルである「MIDORI 理論」を活用している。地域診断を実施し計画、評価を行うことで①その地域に合った保健対策の実施②望ましい健康行動を支援するという過程を踏んだ。中でも〇村の歯科保健の実施には、専門職や地域の方々の個人としての人的資源、また村の避難所や防災無線があること、三世帯世帯が多いことなど周りの環境を考慮した地域に合う計画の策定が成果に結びついたということがインタビューからわかった。また歯科保健について日々の会話の話題に上がるような口コミで広がるような取り組みがなされていた。はじめは住民各々が理論について明確に知っているわけではない場合でも、資料を提示し現状を理解するための支援をすること、活動の結果を共有し後押ししていくことで、保健活動が住民主体で活性化されていくということが明らかとなった。

2) 〇村の歯科保健事情の改善について、変化の要因として考えられるものはなにがあるか。①地域や学校の健康課題を地域の実情を考慮しながら明らかにすること、②専門職主体ではなくその健康課題を当事者が自分自身の問題として捉えられるように意識させること、意見を発表する場にも積極的に住民を参加させたこと③活動が確実なものとなるように話し合いの場や組織を設定していくこと④各々の専門職の持つ意見が異なる場合でも、それを統合し具体的な方向性を合わせることである。〇村では意見の違いがあったからこそ、計画が繰り返なおされ改善された場面も見受けられた。現状や計画実施の結果の評価の共有も改善を促すうえで重要である。〇村では歯科保健ノートの作成や学校保健委員会の活用など、この結果の共有方法や情報共有の仕方が覆れていたと考える。

4. 結論

本研究により、地域保健活動とはその地域に根付くものであり、成果を喜び合い、活動について声を掛け合うなど、人と人のつながりこそが保健活動の成果に影響しているということを学んだ。この学びを心に留め、私も日常の会話から地域の方々や子どもたち、地域の専門職の方々との温かいかわりを持てるような養護教諭になりたい。